

## 卒業生の合格体験記

### 「3年間の成果」

機械工学科1組 進路先：名城大学

私は中学生のころ、正直将来についてあまり深く考えていませんでした。なんとなく早く仕事に就いて自立したいと思い、可児工業高校に入学しました。1年生のころは、就職にするか進学にするかも自分の中で定まっておらず、途方に暮れていました。しかし、2年生になり、好きなことを仕事にしている先輩方から、興味のあることを学べる大学や専門学校についての話を聴き、私も将来は好きなこと、興味のあることに携われる仕事をしたいと考えるようになりました。その後、自分自身と向き合い考えた結果、人の健康的な生活を支えることが私のやりたいことだと気がつきました。そんな心持ちで3年生になり、いよいよ進路を決定していかないといけない時期となりました。今まで以上に進路の情報を集めていくうちに、生体材料という、人体に移植するために開発される材料に惹かれました。この分野について学び工業的視点から人の健康的な生活を支えていきたいと思うようになりました。以上の経緯から名城大学で生体材料の研究をするという夢を持つことができました。1、2年生の頃は将来が不透明であったこんな私ですが、その中でも大切にしてきたことがありました。それは勉強です。最初から入りたい企業、学校を決めながら可児工業に入学した人たちは、その目標に向かって努力することができます。しかし当時の私の場合、今後、自分が大きな目標を見つけても、それを実現するだけの学力や成績が伴っておらず、夢を諦めることになってしまうリスクもありました。だから、いつ目標ができてそれを実現できるよう、常に良い成績を維持し続けてきました。また、勉強以外では部活動にも力を入れてきました。私はバスケットボール部に所属しており、日々の練習に取り組むことで、自身の技術、体、そして心を磨くことができ、チームスポーツを通して協調生や、コミュニケーション能力なども身につけることもできました。このような力は勉強だけで身につくものではなく、それでいて、社会人として必要不可欠なものであると思います。これらの自分が可児工業高校で身につけた力を誇りに思い、また、自身の成長を実感でき満足することができました。そして、実際に名城大学から合格通知をいただいたときは、とても嬉しかったです。しかし、現実を見てみると私のように工業高校から推薦で大学に入学すると、一般選抜で合格した人たちと比べ普通科目に関わる学力が不足していると思います。入学までに、基礎的な学力をしっかりと身につけ、入学後も周りの人に分からないことを質問したり、自分が有利な専門科目の知識を逆に教えたりすることができるよう、高校での学びを更に深め、そして活かしていきたいです。このような将来のビジョンを描くことができたのは可児工業高校の先生方や両親、友人の力のおかげです。ありがとうございました。支えてくださった人たちへの感謝の気持ちをもって更に精進していきます。

## 卒業生の合格体験記

「感謝」

機械工学科2組 進路先：アイシン化工株式会社

私は、高校卒業後は就職したいという気持ちが強く、職業高校で専門的な分野を学びたいと考えていました。中学校の先生や親からも進められ、企業からの信頼も厚く求人数が多いという、可児工業高校に進学することを決めました。

1年生では、まだ就職する企業について深くは決めておらず、とりあえずは私の学力を高めること、部活動を通して先輩達とのコミュニケーション能力を身につけることを意識してきました。入学した当初は、中学の頃とは違い何もかも初めて学ぶことが多く、苦勞してきましたがクラスの友達やバスケットボール部の仲間、先生方にサポートしていただき徐々に高校での生活にも慣れ、クラスでも部活動でも微力ながら貢献できていると実感が持てるようになりました。

2年生では、テストの点数も落ち、学習状況としては低迷した一年となりました。その背景には、2つ上の先輩方が卒業したことで自分がより一層部活動でチームを引っ張らなくてはならないという使命感や後輩ができたことで、先輩らしい背中を見せることへの責任感があったからです。部活動に気持ちが集中し過ぎてしまったことが要因であると分析しました。

3年生では、この失敗をどう改善していくのか、自分と向き合う時間をつくりました。テストの点数や成績といった学業を疎かにすることなく、部活動としてもチームの目標を達成することが、自分の中の課題でした。それでも、自分一人ではどうしようもないことになりました。その後、私はすぐに友人に声をかけ相談することで、自分の目指す具体的な理想像を作り上げることが出来ました。そうして、周りの友人や先生や部活動の仲間に支えられることで、文武両道を実現し満足する結果が得られたと思います。

この3年間で私が得たことは、実現可能なハードルの高い目標を見つけ、周囲の人を頼ること。自分を奮い立たせるために紙などに書き記すこと。人に話し言葉にすること。これらを実行する行動力です。この力が私の長所だと自覚することができたことです。

私は、将来保全マンになるという納得のいく職種で、学園生という環境まで整え、株式会社アイシンという大手企業に就職先を決めることができました。また、Bリーグのスポンサー企業であるため観戦を通して、機会があればプレーを続けることができれば、バスケットボールを生涯スポーツとして取り入れ、健康面でも精神面でもリフレッシュすることが出来、仕事との両立もメリハリのきいた明るい未来に向かって全力で向かっていきたいと思っています。

最後になりますが、3年間で学んだことが良いものだったと言える様、何事にもチャレンジ精神を持って励んでいきます。私に関わってくださった方々に、改めて感謝の気持ちを伝えたいです。“有難うございました。”

# 卒業生の合格体験記

「継続」

電気工学科 進路先：名城大学

私は中学生の時に当時の先生から電気の大切さを教わりました。そこで、私もその世界で学習し、就職をして社会に貢献したいと考えるようになり可児工業高校に入学することを決めました。入学当初は専門科目の勉強が難しく理解するのに時間がかかりましたが熱心に取り組み多くの知識を得ることができました。部活動などで家に帰る時間が遅くなってしまっても無駄な時間を減らしたり、毎朝早起きをしてできた時間を有効活用したりして必ず勉強をする時間をつくり励んできました。そして、1年生からの3年間高い成績を維持し続けることができました。実習においてもシーケンス制御やアンプスピーカーの製作など経験したことのない学びの連続で苦戦しましたが、周りの友達や先生からアドバイスを受けてひとつひとつの手順を理解しながら取り組むことができました。そして、入学した時と比べ実習や課題研究に取り組んでいく中で自分の技術が向上していることを実感しました。

入学した当時は就職をしようと考えていました。しかし、専門科目の勉強や実習をしていくうえで電気回路やプログラミングをより詳しく学び、それを設計する仕事に就きたいと思うようになりました。ここで大学に進学することを決めました。3年生になってからは大学のオープンキャンパスにたくさん参加し、それぞれの大学での生活のイメージを持つことができました。中でも名城大学には研究室と設備が充実しており自分の学びたいことに限らず電気についての多くのことを学ぶことができる環境があると思いました。そこで、名城大学に進学しようと決めました。それから大学のホームページを見て調べたり、進路指導室で過去の先輩方の受験報告書を見せていただき参考にしたりすることで面接や口頭試問のイメージを持ちました。そこで、実際に出た面接の質問内容や口頭試問の問題を理解し、答えることをメモ帳に書いて頭で考えていることを整理するなどの対策を進めました。試験当日はとても緊張しましたが練習してきたことを思い出し、落ち着いて面接に臨むことができました。合格した後は大学の教授から勉強しておくよう助言をいただいた数学Ⅲや化学の内容について参考書を使って学んでいます。

大学には普通科から入学してくる生徒も多くいるので講義についていくのが大変だと思います。そのような環境でも高校生活で身に付けた継続力を活用しコツコツと学習に励んでいきたいと思います。私がこの大学に合格できるよう支えてくれた先生方、家族に感謝しています。この気持ちを忘れずこれからも努力を積み重ねて頑張っていきます。

## 卒業生の合格体験記

「自分に出来る恩返し-感謝・成長・仕事-」 化学技術工学科 進路先：日本碍子株式会社

私は化学に興味があり、高校卒業後はものづくりに関係する仕事に就きたいと思い、可児工業高校に入学しました。高校では、身近にある工業製品の材料やその製造工程をはじめ、地球環境問題などについて学び、実習では試料の定性分析定量分析や薬品による化学反応などの基礎的技術を学びました。

私は1年生の時に、先生から就職には成績が重要視されることを聞き、それから勉強を頑張り、提出物を確実に出すことを心掛け、常に成績上位を維持することを意識しました。その結果、良好な成績を維持することができ、結果として希望する企業の選択肢を増やすことができました。

私は、3年生の5月頃まで自分の行きたい就職先を絞ることができませんでした。そのような時に、自分の適性や興味のあることなどに基づいていくつかの企業を紹介していただきました。その中に、日本碍子株式会社さんの名前があり、詳細を聞き興味を持ちました。自分で企業のHPを閲覧するなど、さらに詳しく調べることで関心が高まっていき、採用試験を受験する意思が固まりました。それからは、求人票をくまなく見て採用試験で何が試されるのかを把握して、試験に向けて対策を始めました。採用試験は面接と作文の2つでした。どちらの対策も丹念に取り組みましたが、特に力を入れたのは面接対策の練習でした。そのために、普段の生活の中でいろいろな方への挨拶や友達との会話などを通してコミュニケーション能力を高められるようにトレーニングしました。さらに、先生方に面接指導をしていただき、面接練習の中でいただいた修正点やアドバイスを意識して、練習を何度も繰り返しました。試験当日はとても緊張しましたが、練習を積み重ねた甲斐もあり、とても落ち着いて自分の思いや考えを試験官の方々に伝えることができました。入社試験は、無事内定をいただくことができました。私が会社に合格できたのは、私自身の力だけでなく、両親や先生方などのたくさんの方に助けていただいたおかげだと思っています。これから、困難なこともたくさんあり、なかなか思い通りにいかないこともあると思いますが、今まで支えていただいた方々への感謝の気持ちを忘れずに乗り越えていきたいと思っています。

私はこの高校生活を振り返って、自分はいろいろな方々に常に支えられていることで物事をこなせていたんだなと実感しました。この3年間を通してたくさんの方々に支えていただいたおかげで自分の成長になげられたのだと思います。これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れることなく、今後も頑張っていきたいと思っています。そしてこれからも努力し続け、今度は社会人として成長していきたいです。これから共に働く仲間や先輩方にもたくさんの迷惑をかけることになると思うので、感謝の気持ちをもって、社会人としてふさわしい生活を送れるようにしたいと思っています。

# 卒業生の合格体験記

「クレーンに魅せられて」

建設工学科 進路先：御嵩クレーン株式会社

幼い頃から現場で活躍する建設機械に興味を持ち、土木の世界で働きたいと考えて可児工業高校に入学しました。建設機械のオペレーターになる夢を抱いていましたが、どの機械を扱いたいかまでは具体的に決まっていませんでした。そんな中、学校生活や様々な経験を通じて、私が本当に目指したい道が明確になりました。

1年生の社会見学でバックホーに乗せてもらう機会がありました。もともと乗り物が好きだった私は、操作の楽しさを感じましたが、「これが自分の目指すものか」と考えると、どこか物足りなさを感じました。その後、2年生の中長期インターンシップで、初めてクレーン作業を間近で見たとき、心が大きく揺さぶられました。風や周囲の状況に細心の注意を払いながら、人の力では動かせない巨大なものを吊り上げる繊細で精密な動きに感動し、これこそが自分が目指すべき道だと確信しました。それから、地元でクレーンを専門とする企業について詳しく調べ、御嵩クレーン株式会社への就職を決めました。また、高校生活では「高校生ものづくりコンテスト測量部門」に挑戦したことが特に印象に残っています。1年生で初めて参加した際は、多くのことを覚える必要があり、放課後や自宅での練習に励みました。しかし結果は3位で、惜しくも東海大会への出場を逃しました。この悔しさをバネに、翌年はさらなる努力を重ねて挑みました。その結果、県大会で見事優勝を果たし、続く東海大会でも優勝。全国大会にも出場することができました。全国大会では、規模の大きさに圧倒されましたが、青森で出会った全国の土木仲間が温かく迎え入れてくれたことに感動しました。また、大会運営や指導を含め、非常に多くの方々の協力があつたことを実感し、この経験が土木業界の絆の強さを感じさせてくれました。結果こそ納得のいくものではありませんでしたが、技術や人とのつながりの大切さを学べた貴重な時間となりました。その後、後輩たちが県大会で優勝した際には、自分の経験を伝え、一緒に練習してきた努力が報われたと感じ、とても嬉しかったです。

これらの経験を通じて、私は技術を磨き続ける力や、仲間と切磋琢磨しながら共に成長する姿勢を身につけました。卒業後は、健康管理や免許取得に力を入れ、一日でも早く一人前のクレーンオペレーターとして現場で活躍できるよう努めていきます。また、建設業界は男性が多い環境ですが、女性が働きやすい環境を作る先駆者になれたらと考えています。

最後に、これまで支えてくださった先生方や仲間たちに心から感謝しています。高校生活で得た経験を糧に、社会の役に立つ仕事を目指して成長を続けていきます。